# カレンダー

## ――豊かな文化遺産への入り口――

カレンダーは、社会の源となるさまざまな行事や人間の営みに貢献してきた出来事への入り口である。日本では年間を通じて多くの祭りや行事が催され、各市町村で何の催しもない月はないぐらいだ。たとえ表面的であっても、こうした行事について学ぶことは、日本の奥の深い文化的背景を知る機会となる。12ヵ月の月の名称を教えるときに、これらの行事のうち、特に子どもになじみの深い行事を紹介することは非常に価値のあることだと思われる。日本語学習の過程で、ほんの少しでも日本の生活の素晴らしい一面にふれる機会を児童たちに与えることが、その目的である。

チエコ・ジョーンズ
Chieko Jones
シドニー・ジャパニーズ・スクール
（オーストラリア、ニューサウスウェールズ州）

## 目的

### 言語面の目的

- 12ヵ月の月の名称を言えるようになる。
- 誕生月（誕生日）を言ったり、尋ねたりできるようになる。
- オーストラリアおよび日本の行事と行われる月とを結びつけることができるようになる。

| 学習する機能 | 学習する文型 | 学習する語彙 |
|---|---|---|
| ✣ 日にちを言う<br>✣ 誕生日や文化的な行事と行われる月とを結び付ける | ✣ AはBですか<br>✣ AはBです<br>✣ Januaryはなんがつですか<br>✣ Januaryはいちがつです<br>✣ 誕生日はしちがつです<br>✣ 運動会はくがつです | ✣ 1～12月、たんじょうび、なんがつ、あめ<br>✣ 祭りとその他の行事<br>おしょうがつ、せつぶん、ひなまつり、にゅうがくしき、こどものひ、てるてるぼうず、たなばた、おまつり、うんどうかい、はっぴょうかい、しちごさん、クリスマス |

### 文化面の目的

- 日本の年中行事について学ぶ。
- 日本の行事と、（もしあれば）オーストラリアの同じような行事を比較する。
- 二つの文化に共通する点と異なる点があることを知り、それぞれの考え方を理解する。

© 1999 THE JAPAN FORUM 

# レッスンプラン

## 用意するもの

**英語で月の名称が書いてある12枚のカード**
**「たんじょうび」「なんがつ」と書いてあるカード各1枚**
**毎月の行事のイラストが描いてある**
**12枚のカード（A4判相当）**
**A6判のカード12枚を児童2人に1セットずつ**

- イラストは旅行雑誌やパンフレットなど参考資料の写真や次のような参考資料に載っている絵を使ってもいい。*Japan: An Illustrated Encyclopedia*（講談社インターナショナル）、『たのしく読める日本のくらし12か月』（杏文堂）、*Hello Japanese for Boys and Girls*（インターナショナル・インターンシップ・プログラム）など。
- チエコ・ジョーンズ先生が描いた1～12月のイラストを添付してあるので、カードを作る際には参考にしてほしい。**（資料2参照）**

## 授業の進め方

**準備**

- 毎月の行事のイラストの入ったA4判のカードについて
毎月のイラストの下に、行事などの名称を日本語（ひらがな）で記しておくが、最初は見えないように折り返しておく。
- 児童2人に1セットずつ配るA6判カードについて
カードは両面にA4判のカードと同じイラストをコピーし、表はカラー、裏は白黒にしておく（ゲームのときに表裏の区別がつくように）。イラストは原本から適宜縮小してコピーしておく。イラストの上下に文字用の余白をとり、表の上辺には英語で月を、下辺には日本語（ひらがな）で行事の名称を、裏の上辺には日本語（ひらがな）で月を、下辺には英語もしくはローマ字で行事名を書いておく。このカードは授業中のゲームで子どもたちが使う。

**1.** いつものように挨拶をし、簡単な話をした後、前回の授業で教えた曜日の言い方を簡単に復習する。まず「今日は何曜日ですか」と尋ね、正解を黒板に書く。それから「あしたは何曜日ですか」「きのうは何曜日でしたか」と続けて質問する。さらに「きのうは何をしましたか」と尋ね、児童に答えさせる。

**2.**「たんじょうび」と書いたカードを児童に見せ、音読させてから、意味を尋ねる。もし誰も答えられないようなら、birthday（誕生日）であることを説明する。「なんがつ」と書いたカードでも同様のことを行う。2枚のカードを黒板に張り付け、チョークかペンで「たんじょうびはなんがつですか」という質問を書く。児童に即座に答えさせる。児童がそれぞれ自分の誕生月を英語で答えたら（まだ日本語の言い方を学習していないので）、英語の月の名称をカードに書いて、月の順に黒板に張る。

**3.** 黒板の月のカードが1年分にならないときは、欠けている月を児童に挙げさせ、そのカードを黒板に張る。

**4.** 1年は何ヵ月か児童に尋ね、日本語で数えさせて、それぞれの月のカードの下に数字を書く。さらに「なんがつ」のカードに注目させ、その意味を尋ね、「がつ」がmonth（月）の意味であることをしっかりと説明する。ついで、数字に「がつ」をつければ日本語の月の名称になることを説明する。これは黒板上で行い、つづいて「Januaryはなんがつですか」という質問をする。

**5.** 今度は「たんじょうびはなんがつですか」と日本語で質問し、「（わたしの）たんじょうびはしちがつです」というふうに日本語で答えさせる。

**6.** 行事にまつわる催しや品物の絵を用意しておき、児童に催しについて説明させ、それが何という行事であるかを答えさせる（これは英語で行う）。クリスマスや運動会、入学式など、知っていたり考えつくものもいるだろうが、答えられないものについては説明する。日本語の行事の名称はカードの下の折ってある部分を広げて見せて、それぞれの行事が行われる月が何月であるかを教える。絵は黒板に順不同に張っておく。

**7.** 児童を順番に黒板の前に立たせ、絵を1枚選んで、例えば「クリスマスは何月ですか」と質問する。「（クリスマスは）12月です」と答えたら、その絵を該当する月の下に張りつけるように指示する。

**8.** 全部の月を張り終えたら、例えば「子どもの日は何月ですか」と質問する。このときは小さいカードを使う（人数の多いクラスでは大きめのカードを使う）。答えはカードを裏返して確認させる。これは次のカードゲームの準備にもなる。

**9.** 児童を2人1組に分け、それぞれの組にカードを1セット渡す。（じゃんけんで）順番を決めて、月と行事の名称をお互いに質問させる。片方の児童がテーブルの上に広げたカードから1枚選ぶと、もう1人が質問する。裏返して答えを確認させ、正解のカードははずし、不正解ならテーブルの上に戻すように指示する。全部正しく答えられるまでこれを続ける。

 ©1999 THE JAPAN FORUM

**10. 復習**

ゲームが終わったら、教師は月と行事の名称を改めて教え、児童はそれをノートに書き取って、授業を終了する。

**11.** 児童は皆、楽しそうに自分の誕生月を告げ、自分の誕生月の行事について興味を示す。学習効果を上げるため、「誕生日は何月ですか」の答えを日本語で書いてくること、クラスで話し合ったその月の行事の名称を書いてくることを宿題とする。できればそのイラストも描いてくるように指示する。

**備考**

- 次の授業では、違うゲームをする。児童各自に月別カレンダーを作らせる。用紙にあらかじめプリントしておいた行事のイラストに色をつけさせ、月の名称（日本語で）と月ごとの行事の名称、曜日を書き込ませる。参考になるように数字を小さくプリントしておき、児童が日付の数字を書く場所が分かるようにしておく。**（資料1参照）**

　その次の授業では、日本式の誕生日カード、クリスマスカードもしくは年賀状、てるてる坊主を作らせる。

## 行事例（イラストの内容）

**1月** ……**お正月**（新年を象徴するもの。鏡餅、書き初め、門松）

**2月** ……**節分**（鬼の面をつけた人に大豆を投げつける男の子）

**3月** ……**ひな祭り**（屏風を背に座っているお内裏様とお雛様）

**4月** ……**入学式**（真新しい制服を着て初登校する新入生。日本では学校は4月から始まる）

**5月** ……**子どもの日**（紙の兜をかぶった男の子と後ろの鯉のぼり）

**6月** ……**てるてる坊主**（晴れるように願をかける人形）

**7月** ……**七夕**（星の祭り）（竹に色とりどりの短冊をつけている子どもと女性）

**8月** ……**お祭り**（踊りに興じる浴衣姿の女性とはっぴの子ども）

**9月** ……**運動会**（走っている女子児童とボールを蹴る男子児童）

**10月** ……**発表会**（舞台の上で劇を演じる子どもたち）

**11月** ……**七五三**（神社の鳥居の前に立つ着物姿の7歳と3歳の女の子と5歳の男の子）

**12月** ……**クリスマス**（サンタクロース、トナカイ、クリスマスツリー）

© 1999 THE JAPAN FORUM 

## 文化理解と外国語学習について

### 日常生活の背景にある行事を教える

カレンダーは、歴史や文化への入り口のようなものである。カレンダーを使って日本人の日常生活や人間関係に影響を及ぼし、大きな役割を持つ年中行事を児童に紹介することができる。

日本では年間を通じて、いろいろな祭事や行事が数多く行われている。行事のない月はないぐらいで、全国的な行事はもちろん、特定の地域で行われる行事もいろいろある。どれも色彩豊かな興味深いもので、日本の日常生活の背景をなすものを理解させてくれる。

祭りの多くは季節に応じて催される。春祭りや秋祭りがそのよい例だろう。もともと春祭りは、日本各地で桜の花が美しく咲き誇るからというだけでなく、豊かな収穫（特に主食の米）をもたらしてくれるよう神に祈りを捧げたところから始まったものであり、秋祭りは神に恵みを感謝する祭りとして行われてきた。夏祭りや冬祭りは天災や疫病を退散させるために始まったのだろう。

最近の祭りはほとんど、特に都会人にとって楽しみといこいの場となっているが、かなり活発に行われているものもある。その多くは今も昔の形をとどめている。

忘れてはならないことは、これらの行事のうちいくつかはアジアの近隣諸国から日本の文化に取り入れられたものだ、ということである。例えば、中国の文化が大きな役割を果たしている。中国の漢字が後に日本語の文字になったばかりでなく、今日私たちが日本独自のものだと思っている文化的行事で、中国あるいは他の近隣諸国から入ってきたものも少なくない。好例は動物の名前をつけて年を表した干支で、これも中国がその起源だ。もちろん、日本を起源とするものもたくさんある。

多文化社会のオーストラリアが文化的な変容を経験しているように、日本の文化も近隣諸国や貿易先の国々から影響を受けてきたし、今後もそうであろう。なぜなら、文化は変容し、常に発展していくものであるから。

児童たちに月の名称を紹介したり、日本語で日の数え方を教えたりするとき、祭りやその他の行事が興味深い文化的な背景を提供してくれる。もちろん、月ごとにどんな行事を選ぶべきかはよく検討する必要がある。

原則として取り上げる行事は、以下のようなものが望ましい。

- 児童の年齢に合ったもの
- 児童と結び付きのあるもの
- 児童の関心を引くもの
- 児童の想像力をかき立てるもの
- 明るく色彩豊かなもの

さらに、自国の文化との相違点や類似点を挙げる場合、双方の要素をもつバランスのとれた行事を選ぶべきである。

### 講　評

1年生の早い時期から、ひらがなに触れさせることは大切だ。その点、このレッスンプランでは、児童の使うカードにひらがなが書いてあって効果的である。一つ提案したいが、漢字を導入するのはどうだろうか。この時期に漢数字（一、二、三、四、五、六、七、八、九、十）、曜日（日、月、火、水、木、金、土）を教えるのがいいのではないだろうか。「漢字はひらがなを覚えてから」ではなく、紹介できるものはどんどん紹介すればよい。ゲーム用のカード、カレンダーなどに漢字を書くといいだろう。

 ©1999 THE JAPAN FORUM

## SPORTS DAY（　　）

## September（　　）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ようび | ようび | ようび | ようび | ようび | ようび | ようび |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

© 1999 THE JAPAN FORUM

1月

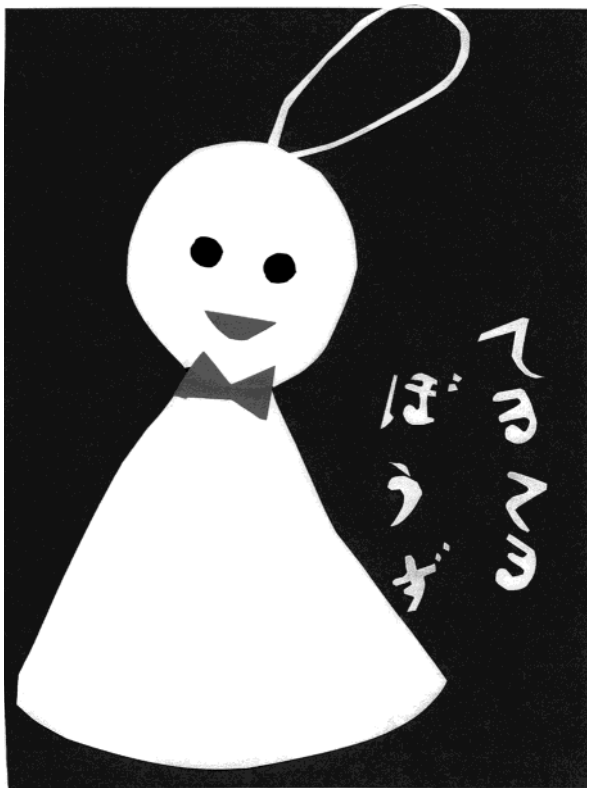
2月

3月

4月

 ©1999 THE JAPAN FORUM

5月

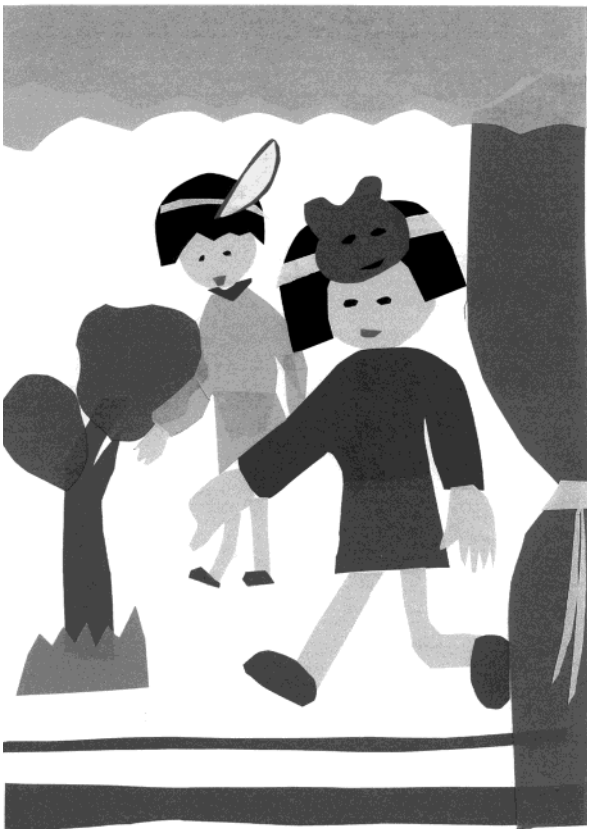



6月

7月

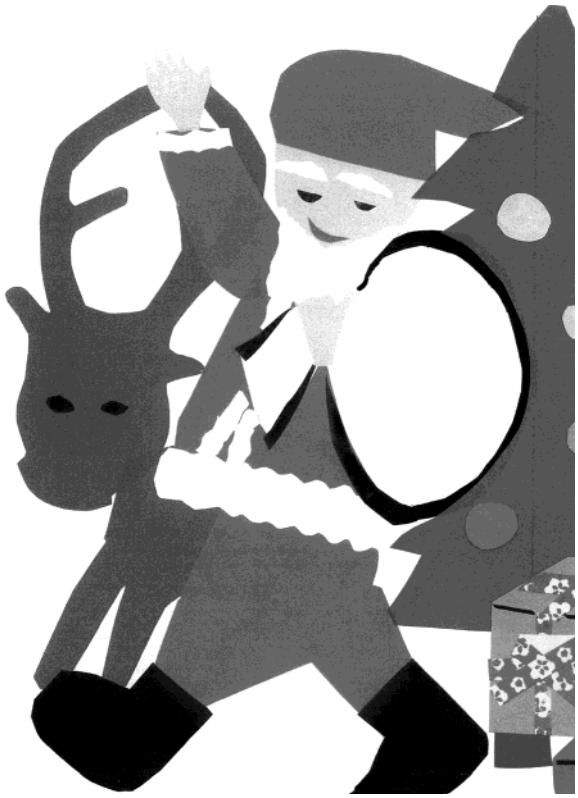
8月

9月



10月

11月



12月

 ©1999 THE JAPAN FORUM